No. 1

年　月　日

北九州鮮人
勞働者の生活

北九州に於ける鮮人勞働者は飯塚隊と唱へられて居る今門司市に於ける鮮人勞働者の生活狀態に就き門司警察署の調査に依ると在住鮮人五百七十六人で内勞働鮮人男四百六十八人女六人で其他は婦女子である而して之を前年同期に比すると男に於て約百二十人女二十人を增加して居るが現在獨立の生計を營める者は四十戸で内同棲族同棲せる者二十九戸男六十三人女四十六人で内地人と内縁を結べる者は男十一人女十三人である而して其他は何れも雜居生活を爲せる者で男二百二十九人女四人で彼等の生活狀態は頗る悲慘なものである中には八疊位の處に三十五六人が雜居生活を續け少くとも六疊に十五人平均が頭を列ねて生活して居る此一日の生活費は日本人宿は六十錢内外で鮮人宿は一日六十五錢乃至七十錢で極めて粗食である彼等の一ケ月の收入は最高（沖水夫）百二十圓乃至九十圓平均で屠手 賄付四十五圓位であるから約八十圓内外の收入であるが人夫日傭稼は普通男一圓四五十錢女一圓職工月收七十圓内外で遙に邦人の勞働生活者を凌いで居る多くは市内白木崎方面に集團を構へて鮮人町を形作つて居る彼等の兒童の能は素晴しい能力を示して現在四十三人の男女兒童が居るが就學兒童男七人女三人で小學校に於ける成績は何れも乙組で成績良好である而して在住鮮人中日本語を解する者男百七十九女五人解しない者男三百六十二人女四十一人無學者四百七十四人女四十五人小學卒業程度の者男二十五人女一人中學卒業程度の者男二人である之を職業別に示せば殆ど全部が人夫や土方仲仕である今在住鮮人增加の原因は八幡市に於ける製鐵所縮少に起因する處が少くないさうである彼等鮮人勞働者の生活改善や勞働改善には未だ多くの問題が殘されて居る

一月十三日九州日報

官業勞働者

失業問題大會

來る十五日八幡市で開催

製鐵所の態度と當局

軍備制限後の官營造船所及軍需品製作所の大縮小に依る勞働者失業問題に付いては曩に大阪市公會堂で官業勞働總同盟會といふを催し同會の決議文を携へて政府當局を訪問したが大會は流動的に東京に移り更に關係工場所在地に移動し來る十五日には同盟會同志會主催となり八幡市に於て官營八幡製鐵所に對し一種の示威的大會を催す筈である其方法は神戸の今井博士大阪向上會長八木信一氏外數名の來援者を八幡停車場に迎へ午前九時から正午迄歡迎行列を行ひ市中を練り歩き大倉兩館で來援者の歡迎會を催し同日午後五時から大會を開き次で演説會に移り來援者の演説ある筈で所轄八幡署では此が催しにつき相當警戒をする方針である尚八幡製鐵所では同大會を餘り重大視してゐる模樣ではなく却つて迷惑がつてゐる模樣である同所では軍備縮少に伴ふ海軍向製品の注文が杜絶し二三工場の閉鎖をなしたが決して失業者を出さないと聲明してゐるので強て斯樣の大會を催す必要はあるまいと觀測してゐる

製鐵所に

製鐵手

といふもの新設

八幡製鐵所では從業員奬勵の爲め今回更に一階級を設け六階級とした從來は官等官判任官雇員傭人職工の順序であつたが判任官と雇員の間に製鐵手と稱する一階級を設け判任官待遇となし庶務又は技術に從事せしむる事とした

自然淘汰一千名

其成績は極めて好い

と當局で言つて居る

八幡製鐵所では鐵界不況に依る經營難切拔策として大々的な職工の馘首若しくは工場整理をしなかつたが之れに代ふるに漸進的人員淘汰及び工場整理を遂行する事とし大正十年度即ち昨年四月以降同十二月末迄に千四百二十八名の職工大淘汰を行ひ工場は製[illegible]の實行不能のものから漸次閉鎖若しくは休業し從來各工場とも晝夜三交替制を敷いてゐたのを鋼鐵部等の止むを得ないものを除いては殆んど二交替若くは一交替とし陸軍關係の鋼彈工場を始めとして二三工場の閉鎖を斷行してゐる昨年十二月末製鐵所本所内職工數は一萬五千九百十八名で昨年四月末に比し千二百六十六名を減じ一昨年同期に比し千百四十二名を減じ又戸畑工場（元東洋製鐵）では四月引繼當時は千百七十九名であつたが十二月末には百八十一名を減じ九百九十八名に過ぎず尚十二月中の採用數は百二十九名で解職數は二百四十四名差引百十五名の減員を見せてゐる如き自然淘汰の結果に就き同所當局に依ると之れは不良分子の掃蕩で出勤率及能率を增すもので現に十二月中の出勤率は出勤八割缺勤二割の好結果を得尚淘汰後の能率は淘汰前と少しの差異なく一千名位淘汰が能率に些の影響變化も來して居らぬ之れによつて淘汰された者は從來の行詰つてゐたと見られるようなものであつて居た